一年後に乱は上杉軍の勝利で終結し、その戦後処理で、謙信が本庄領を削って鮎川領としたため、元亀二年(1571)、両者の間に武力抗争が勃発しました。

## 大葉澤城跡について

西の宮山(標高86m)と東の寺山(標高94m)からなり、宮山の東西両端には大規模な堀切がつくられ、外敵の侵入に備えています。主曲輪の中腹にも大小の曲輪や堀切、切岸が普請されています。そして、斜面に沿って高さ3m、長さ15mの土塁が6mの間隔で配される畝状竪堀群が南側で50数条、西側で6条あります。これは外敵の横移動を阻止し一列縦隊に制限された敵を前面の尾根から狙撃するための防御施設です。これらは本庄氏の居城、村上城方向につくられており、先にふれた同氏との抗争の中で築かれた施設と考えられます。寺山には東西120m、南北50m程の不整長方形の曲輪が広がり、北・東・南辺には土塁が築かれ、東側には7条の畝状竪堀群が配されています。

大葉澤城の築城年代は明らかではありませんが、永正年間に長尾為景に攻められていることから、16世紀初頭には鮎川氏が居を構えていたと考えられます。慶長三年(1598)、鮎川氏は上杉氏移封に伴い、米沢の玉庭に移り、大葉澤城は廃城になりました。

地域の歴史を知る上で貴重な文化財であることから、平成8年3月29日に新潟県史跡に指定されました。

畝状竪堀群

## 村上市の城館

※上記地図の白線は旧市町村境

1．大川城跡(中世)小泉荘最北の国人領主大川氏の居城
2．猿沢城跡(中世)村上城と並ぶ本庄氏の居城
3．間島城跡(中世)海浜部の小規模な山城、城歴等は不明
4．下渡山城跡(中世)本庄繁長の乱で上杉が奪うが、本庄奪還
5．大葉澤城跡(中世)鮎川氏の居城、50条余の畝状竪堀群
6．笹平城跡(中世)本庄繁長の乱で上杉謙信が普請
7．大館跡(中世)国人領主級の館と考えられるが詳細は不明
8．村上城跡(中世・近世)本庄氏が築城し、江戸時代には、村上・堀・松平氏等が山上に石垣を張り巡らせ近世城郭へ改造
9．山元遺跡(弥生時代)日本海側最北の高地性環濠集落
10．牧目館跡(中世)色部氏が平林城に在住する前の居館か
11．桃川城跡(中世)色部氏家臣の桃川氏の居城
12．平林城跡(中世)小泉荘加納を領した色部氏の居城
13．馬場館跡(中世)奥山荘北条黒川氏の家臣の館か

# 新潟県指定史跡
# 大葉澤城跡
## Obazawa Castle Ruins

村上市教育委員会2019

鮎川氏家紋「庵の内に桐の薹」

### 戦国時代、北越後
### 阿賀北の国人領主
### 鮎川氏の居城

大葉澤城跡を西から望む

## 鮎川氏と大葉澤城

鮎川氏は、揚北衆と呼ばれる小泉荘の国人領主です。鮎川氏の出自について、村上城主である本庄氏の一族で、早い時期に分家した庶流と考えられてきました。しかし、『本庄氏文書』にある「鮎川氏系図」によれば、鎌倉幕府草創期からの有力御家人だった相模国三浦氏から出た会津蘆名氏の系譜を引いているようです。系譜は鮎川氏との関係がうかがえる鮎川次郎兵衛尉でいったん途切れるものの、越後時代の15世紀後半に活躍した鮎川藤長から再び系譜がはじまります。

慶長二年(1597)の「瀬波郡絵図」や「霊樹山耕雲禅寺納所方田地之帳」によれば、鮎川氏の領地は散在しているものの、三面川と門前川の合流付近から各河川の村々に放射状に分散していました。一円的な領域支配はできなかったようですが、小泉荘では鋳物師屋と本庄氏に続く第三位の役高負担であることから、領主としての影響力は小さくありませんでした。なお、鮎川氏の所領は本庄氏との入会地が多かったため、これが常に紛争の火種となっていたようです。

大葉澤城の城主は、藤長の子清長と、その子盛長でした。16世紀の越後は内乱が続く下克上の時代で、永正九年(1512)に鮎川氏は守護代長尾為景に対して反乱を起こし、大葉澤城は4ヶ月にわたり為景軍に包囲されました。また、享禄三年(1530)、守護上杉定実の実家である上条城主の上条定憲が長尾為景に挙兵した「享禄・天文の乱」では、清長は他の揚北衆とともに為景に与しましたが、天文期には清長を含む揚北衆は定憲に加勢しました。

為景没後、子の長尾景虎(上杉謙信)の代になるとそれに従い、第4次川中島の戦いでは本庄繁長、色部勝長(平林城主)らとともに謙信の軍に合流して武田軍と戦いました。その後、繁長が武田信玄と手を組み謙信に反旗を翻した永禄十一年(1568)の「本庄繁長の乱」では、本庄軍により大葉澤城が攻められ奪われました(後に鮎川氏が奪還)。